

# 県政報告

## 川井友則 かわい ともりの

vol.56  
改訂版

2022年  
5月発行

発行元  
川井友則後援会事務所  
松戸市日暮 2-6-13  
<https://kawatomo.net>



### 予算委員会



## 北総鉄道について



北総鉄道の経営状況をはじめ会社の経費削減等の努力により、いよいよ令和4年10月に通学運賃を軸とした驚きの運賃値下げが実施される事になりました。

20年以上をかけて県も当該自治体も運賃値下げを訴えてきましたが、今回、逆に心配するほどの値下げに踏み切りました。北総鉄道の英断に感謝する所であります。

松戸市でも約30年前から東部地域は松戸の副都心という観点に位置付けられその発展に期待をしていたことから、北総鉄道東松戸駅に特急の停車や運賃値下げなど利便性の向上に活動をしてきました。

今回の大幅値下げを契機と捉えて今一度、県も自治体も周辺整備に尽力をしなければなりません。

そこでまず大前提となる県の見解をお伺いしました。

#### 問

北総鉄道の運賃値下げにより、どのような波及効果が見込まれるのか？

#### 答

北総鉄道では、本年10月に実施予定の運賃値下げにより、子育て世代の沿線への流入や、北総線内における移動の促進を図り、利用者の増加につなげたい、としている。

#### 所感

ここにきて令和元年同期と比べると旅客運輸収益は24.8%減、純利益では41.4%の減収と言う事態になっています。

コロナ過の影響により働き方の在り方など大きく変貌をしたわけでありますが、値下げを英断した北総鉄道を今度は我々、県・自治体が有効活用し沿線施策を打ち出していかなければなりません。

松戸市では、宅地や商工の用地が潤沢とはいえないので、東部地域の再開発もひとつの政策と考えられます。

住環境と労働環境の場を創り上げる事は施策の連動一環に繋がってまいりますので、もう一度東松戸を中心とした都市整備が必要だと考えます。また外環等の道路環境も改善されてきましたから、2月定例県議会一般質問でも挙げましたがサプライチェーンの部資材・部素材を作る企業の積極的な誘致を視野にいれても面白いかもしれません。



質問・お問い合わせはこちらから  
ともりの  
**川井友則**  
後援会事務所  
松戸市日暮2-6-13  
<https://kawatomo.net>

京成高砂	190	280	280	330	380	380	430	480	550	620	620	720	770	820	930	1,000	1,000
新柴又	190	280	280	330	380	430	480	550	550	620	670	770	820	930	1,000	1,000	
矢切	190	190	280	330	380	430	480	550	550	670	720	820	930	980	980		
北国分	190	190	280	330	380	480	480	550	620	720	770	900	980	980			
秋山	190	190	280	330	430	480	480	620	670	770	900	960	980				
東松戸	190	190	330	380	430	480	550	670	720	900	960	960					
松飛台	190	280	330	380	430	550	620	720	860	960	960						
大町	190	330	380	430	480	620	670	860	930	930							
新鎌ヶ谷	280	330	380	480	550	620	830	930	930								
西白井	190	280	380	480	550	800	900	900									
白井	190	330	430	550	770	860	900										
小室	280	380	480	770	860	860											
千葉NT中央	280	380	660	830	830												
印西牧の原	280	600	770	770													
印旛日本医大	470	720	720														

22年10月から!!  
**驚きの値下げ!**  
初乗り 210円 → **190円**  
通学定期 **64.7%引き!**

その他の1円単位運賃や定期運賃などは北総鉄道ホームページにてご確認ください。右のQRコードからも運賃表を確認できます。



【改定後】  
普通券運賃(10円単位運賃)

成田 湯川 空港 第2ビル 成田 空港

## 「坂川周辺の環境整備について」 令和2年2月定例県議会より

当該市の松戸市、地元住民や商工会議所等の要望により、平成23年10月に宣言された清流ルネッサンスによる水環境改善の成果と共に今後引き続き関係機関や流域住民が連携し、清らかな豊かな水環境となるよう努め、同時にその軸となる古ヶ崎・赤坂両ツバノ堰の改修と浄化施設の運転再開等を県へ要望しているところあり、この再開が叶えば平成18年当時の美しい河川環境を再現するだけではなく多くの自然や水辺のプロムナード化、観光資源の保護、特に街中の清流を軸とした文化を守る事にも繋がって参ります。例えば、坂川をほとりとしてかつて濹澤栄一氏の主君であった徳川昭武公が住まれた「戸定邸」や「神社仏閣」、「春雨親水広場」、「河津ザクラ並木」等の幕末明治の文化や景観を色濃く保全していく事になります。

前回は国管理施設の老朽化や、連携あるいは整備について伺い、答弁から具体的に献灯祭までに令和2年度に仮運用し、適切な使用方法を検討して下さるとの答弁を頂きました。

前回の質問は「坂川の水质については、一部の国管理施設の老朽化により悪化している」と聞いているが、国とどのように連携しているのか。また、今後どのような対策を講じていくのか。これに対しての答弁（県土整備部長）では、坂川の水质は、国・県・地元市による連携した取り組みにより、環境基準は達成しており、近年、住民から臭気等の苦情が寄せられているところだ。

このため、平成30年度に坂川河川網における水環境維持・向上を図るため、国・県・地元市で構成する坂川河川網検討

会を設立し、既存の堰とポンプを活用することで、松戸神社周辺の坂川再生区間において、清流ルネッサンスで目標とした水量を供給できる対策を検討しているところだ。

今年度は、堰とポンプを組み合わせて複数の運用を試行し、データ収集を行ったところであり、今後このデータを基に検討を進め、必要な水量を供給できる最も効果的と考えられる方法を令和2年度に仮運用を行うこととしています。と1歩前進したところでありました。今回は予算委員会にてその続きの質問をしました。

**問**

坂川の環境整備について、県はどのような対策をしているのか。

**答**

河川環境課

坂川等の水质については、坂川河川網検討会で、小山揚水機場や堰等の操作の組み合わせを複数試行し、水质改善に最も効果的な運用方法を選定、令和2年度から、この運用を開始したところ、松戸神社周辺の区間において、日中の水量を確保し水の流れが良くなったこともあり、現在、水质は改善傾向。引き続き、効果を検証すると共に、当該検討会において、水质の維持・向上に取り組みます。

**所感**

昭和45年には日本で最も汚れた川、坂川はBOD136を記録しました。それから比較すると現在、菰橋（こもはし）旧春雨橋周辺のBODは約17、赤坂樋門でも約27と平均値を下回っています。地元で育った私からすれば信じられないくらいの水質向上と言えます。また水質改善は都心の清流として松戸の文化や観光・行事を醸成する場となりました。

しかしながら、ここからが苦悩の始まりとも言えます。

国ではあくまでも水質改善が目的であ

り、現在、水質改善が安定している以上、故障している古ヶ崎排水機場の再整備には腰が重い役目が終わった、県としては管轄河川ですから当然、踏ん張ってくれていますが、事実上、10億円単位でかかる整備には後ろ向きです。あるいは管轄外であり江戸川は国の管理ですから、身動きがとれません。

現在の稼働箇所は国も協力し、時間制限つきで運用しているのが実態で、壊れない様にメンテナンスをして頂いています。せつかく生まれた献灯祭り等の行事、市民の民度と憩いの場は守らなければなりません。しかしながら坂川を取り巻く環境維持の実態、本質は当該市たる私たちのまじごととは考えが違ってしまう。

「では、松戸市が負担をすれば？」このような声もありますが、市民の生活に直結する一般会計から、市立病院等の赤字の穴埋めに令和4年度に約29億円が使われ市民に負担を強いている中ではお里が知れたもの・・・ではないでしょうか。

もちろん今後も水辺のプロムナード、水環境の整備にしっかりと取り組んでいきます。献灯祭の開催時期には水量管理の要望もしてあります。

**熊谷俊人**

**知事が**

**目指すもの**



森田前知事の引き継ぎを終え、いよいよ知事就任初となる令和4年度予算が可決しました。新たな総合企画案では、

・県内経済の活性化や農林水産業の振興  
・道路ネットワークなどの社会資本の整備  
備触診

・医療・福祉や子育て・教育施策の充実

など幅広い分野について将来の千葉県の活性化に向けた未来への投資となる事業が盛り込まれています。

また同時にカーボンニュートラルやデジタル化など、新たな分野にも積極的な姿勢がみえます。

計画案では、今後の社会環境の変化等に対応し、県民の命と暮らしを守るとともに、恵まれた自然環境や優れた都市機能を持つ千葉で全ての県民が生きる価値、働く価値を感じられる「千葉の未来」を創造していくとの思いを込めて「新しい千葉の時代を切り開く」をスローガンに組み上げました。

所感としては知事の提唱する「千葉経済圏の確立」に大変な魅力を感じます。東京に依存が偏らない本県の在り方、果敢に取り組んで頂きたいですし、これは各自治体の協力的体制なくして実現はできません。例えば、私たちの住むまつごでは、外環の松戸インター、令和4年10月から定期を軸に大幅な値下げが始まる北総鉄道、さらに流山市では2023年春の開通予定「仮称三郷流山大橋」が建設等の県内の道路ネットワーク環境が拡充されます。

これらを契機として今後、まつごでも更なる都市整備を行う必要性があります。触れる方はあまりいませんが実は、本市は「宅地」や「工業用地」が不足しているのが現状であり弱点と言えます。これらを鑑みると早急に再整備しサプライチエーン対策による企業の誘致や雇用の創出こそが本市が取り組む課題と言えます。

今後とも熊谷知事とスクラムを組むと共に、各自治体との人脈を活かしたパイプ役としてしっかりと市民の方々の生活を守ります。